

英語科学習指導案

活動場所	北校舎3階	2年1, 2組	教室
生徒数	2年2組	男子16名 女子16名	計32名
指導者	教諭	発展コース 補充コース	峠坂 友美 久保 孝明

1 単元名

NEW HORIZON 2 Unit 5 「A Park or a Parking Area ?」

2 単元について

本単元では、市が公園を駐輪場にするという新聞記事を読んだ地域の人が反対の意見の投書を送ったことから、「公園を維持するか、駐輪場にするか」という議論が起こる場面が取り上げられており、身近な地域の問題を扱いながら、「事実を伝える」「意見を述べる」という言語活動が可能な内容となっている。また、このような身近な社会問題について、賛否の論点を整理したり、課題を解決しようとしたりする態度を養っていくのに適した題材となっている。

言語材料としては、従属接続詞 (if, that, when, because) をまとめて学習できるようになっている。これらの従属接続詞を用いることで、自分の考えや感じたことをより豊かに表現したり、英文と英文をつないだりすることができ、より深まりのある英文の理解や表現ができるようになる。なお、従属接続詞を扱うのは本単元が最初であることから、Pattern Practice や基本的な対話練習をする時間を十分に確保し、それぞれの接続詞の意味や基本的な用法について確実に理解させ、自信をもって表現できるようにさせたい。

本クラスの生徒の多くは、集中して学習活動に取り組んでおり、相手の質問に適切に答えたり、与えられた場面を基本的な語句を用いて表現したりする力は付いてきているが、話題を広げたり、相手の意見に対して自分の考えを述べたりする力は不十分である。また、2年生になり、基本的な語句の定着が不十分であったり、基本的な対話活動に自信をもって取り組むことができなくなったりしている生徒もおり、基礎学力の定着に差が見られるようになってきた。

そこで、本単元を指導するに当たっては、少人数クラスのメリットを生かして、個々の生徒への支援を十分に行い、基礎的・基本的な内容を確実に定着させることにより、自信をもって表現活動ができるようにしたい。また、本校の生徒にとって身近なトピックを設定し、コミュニケーションの目的や相手を明確にすることにより、学習意欲を高めるとともに、相手の意見をしっかりと把握し、自信をもって自分の意見を表現できるような活動を多く取り入れ、積極的に英語でコミュニケーションを図り、会話を継続していこうとする態度を育てていきたい。

3 単元の学習目標

- (1) 基本的な表現を用いて積極的に意見を伝えようとする態度を育てる。
- (2) 様々な接続詞を用いて、自分の気持ちや考えを相手に伝えることができるようにする。

- (3) 相手が伝えたいことを聞いたり読んだりして、内容を理解できるようにする。
 (4) 従属接続詞 (if, that, when, because) の意味・用法を理解することができる。

4 単元の評価規準

ア コミュニケーションへの関心・意欲・態度	
学習活動における 具体的な評価規準	想定される生徒の学習状況と手だて
	A 「十分満足できる」と想定した生徒の状況 C 「努力を要する」と判断した生徒への手だて
① 間違いを恐れずに、積極的に自分の意見を伝えようとしている。	A 相手の聞きたいことや意見などに留意しながら、自分の意見を積極的に伝えようとしている。 C 意見を述べるために必要な基本表現を繰り返し練習させ、賞賛することで自信をもたせる。
② 様々な工夫をすることでコミュニケーションを続けようとしている。	A 様々な語句や表現、つなぎ言葉などを用いて、意欲的に会話を続けようとしている。 C あいづちやつなぎ言葉など、会話を継続するために必要な語句を繰り返し練習させ、慣れさせる。
イ 表現の能力	
① 自分の意見や考えを適切な表現で述べることができる。	A 自分の意見や考えを、既習の語句や that 節・because 節など、適切な表現を用いて述べるができる。 C 意見を述べるために必要な基本表現を繰り返し練習し、身に付けさせる。
② 自分の意見や考えを伝えるメールを書くことができる。	A 自分の意見や考えを、正確に、分かりやすく英文で表し、メールを作成することができる。 C 意見を述べるために必要な基本表現や基本的な英文の書き方を具体的に指導する。
ウ 理解の能力	
① 教科書の大切な部分を読み取ることができる。	A 教科書の内容のポイントを押さえ、大切な部分を読み取る。 C 基本的な語句の読み方を練習するとともに、本文の意味内容や読み取りの始点を与えるなどして、再度確認させる。
② 相手が伝えたいことを聞いたり読んだりして、適切に応じることができる。	A 相手が聞きたいことや伝えたいことを正しく理解し、自分の考えを伝えることができる。 C 図や表、キーワードや重要表現等を与え、相手の伝えたいことを理解させ、自分の考えをまとめさせる。
エ 言語や文化についての知識・理解	
① 従属接続詞 (if, that, when, because) の意味・用法を理解することができる。	A 従属接続詞 (if, that, when, because) の意味・用法を正しく理解し、運用することができる。 C 従属接続詞 (if, that, when, because) の基本的な意味・用法について具体的な事例を基に指導し、繰り返し練習に取り組みさせる。
② 日米の学校の相違点について理解することができる。	A 日米の学校の相違点について理解し、英語で紹介することができる。 C 様々な資料を用いて日米の学校の相違点について理解させる。

5 単元の学習及び評価計画

時間	主な学習内容	評価項目	評価方法
1	・ 課全体のあらましの把握 ・ 新出語句の理解	エー②	自己評価表 観察・発表
2	・ if節の理解と練習 ・ Starting Out の内容理解と音読	エー① ウー①	ワークシート 自己評価表
3	・ that節の理解と練習 ・ Dialog の内容理解と音読・会話練習	エー① ウー①	ワークシート 自己評価表
4	・ when節の理解と練習 ・ Reading for Communication (P48) の内容理解と音読	エー① ウー①	ワークシート 自己評価表
5	・ because節の理解と練習 ・ Reading for Communication (P49) の内容理解と音読	エー① ウー①	ワークシート 自己評価表
6 (本時)	・ 既習事項を使った対話活動 ・ メールの返事作成	アー① ウー② イー②	メール原稿 観察・発表 自己評価表 相互評価
7	・ メールの修正 ・ メール送信 ・ Listening Plus 5	イー② ウー② エー②	ワークシート 観察・発表 自己評価表 相互評価
8 9	・ Speaking Plus 3・まとめの練習 2 ・ LET'S CHAT 2	アー① アー② イー①	ワークシート 観察・発表 自己評価表 相互評価
10	・ 単元のまとめ	エー①	単元テスト 自己評価表

6 本時の実際 (6/10)

(1) 題材名

Unit 5 A Park or a Parking Area?

(2) 学習目標

自分の意見を理由を添えて表現できるようになる。

(3) 授業設計の視点 (発展コース)

ア 基礎的・基本的な内容の定着を図り、自分で考えて表現する場の工夫

既習事項を使って答えられるような応答の場を設定する。また、教師と生徒のインタラクションだけではなく、生徒同士でも同じように英語で会話をさせ、個々の生徒の発話量を増やす。

イ コミュニケーション活動を活性化させる場の工夫

(ア) 英語を使う必要性を感じさせるために、コミュニケーションの相手を明確にした Task を与え、相手が自分の意見を求めていることを理解させ、活動に取り組みさせる。

(イ) 自分が表現したいことが適切に表現できなかつたり、どの単語や文法を使えばよいか分からなかつたりしたときは、表現集を活用させ、それを参考に自分の意見をまとめさせる。

ウ 生徒が表現力の高まりを実感できる評価の工夫

終末の自己評価の際に、本時の活動への取り組みを十分に振り返らせ、今後の課題を見いださせる。

(4) 授業の展開 (発展コース)

課程	時間	学 習 活 動	指導上の留意点と評価 (◆は評価項目)
導 入	10	1 英語で会話をする。 2 アンケート結果を見る。 3 学習目標を確認する。 自分の意見に理由を添えて相手に伝えよう。	<ul style="list-style-type: none"> 既習の文法事項を使って答えさせるような発問をし、ペア同士でも会話をさせる。 -----<視点ア>----- 少人数級を生かし、生徒の発話量を増やすために、教師と生徒、生徒同士で英語で会話をさせる。 (基礎的・基本的な内容の定着を図り、自分で考えて表現する場の工夫) ◆ 基本的な表現を用いて、積極的に会話を行っているか。 学校生活についてのアンケートを見せる。 何についてのアンケート結果なのか予想させ、発表させる。 アンケートについての自分の意見を発表させる。
展 開	35	4 アンケートに対する自分の意見を考える。 5 アンケートについて、ペアで話し合う。 6 外国から届いたメールを見る。 7 メールの概要を把握する。 8 メールの中の質問に対する自分の考えをまとめ、ワークシートに書き込む。 9 評価ゲームをする。 Let's find the correct sentences! 10 ゲームで学んだ事をもとに、自分の考えをワークシートにまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートを使用し、自分の意見を理由を添えて書かせる。 表現集を参考にさせる。 ダイアログを使って、英語で話を進めさせる。 仕上がりの良い生徒に発表させる。 何について意見を求められているか、把握させる。 -----<視点イー(ア)>----- コミュニケーションの相手を明確にし、必然的に英語を使うようなTaskを与える。 (コミュニケーション活動を活性化させる工夫) Q and Aをしながら生徒の理解を確認する。 ◆ メールの内容を正しく理解できているか。 それぞれの質問に対して、理由を添えて意見を書かせる。 生徒の活動状況に応じて、個別指導を行ったり、全体の到達度の確認を行ったりする。 表現集を活用させる。 -----<視点イー(イ)>----- 自分の思っていることを適切に英語で表現できない場合は表現集を活用させ、表現に幅をもたせる。 (コミュニケーション活動を活性化させる工夫) 他のクラスの生徒の英作文を、いくつか準備し、それをもとにゲームを行う。 間違いやすい箇所や、より分かりやすく伝えるためのポイントを押さえる。 ゲームで学んだポイントを確実に押さえた上で、書かせる。 ◆ 相手に分かりやすく伝えるために、自分の意見や考えを、理由を添えて、書くことができたか。 終わったペアは、相互評価カードに記入させる。
終 末	5	11 本時の学習を振り返り、自己評価をさせる。 12 次時の学習内容を知らせる。	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価カードに記入させる。 -----<視点ウ>----- 本時の活動への取組を十分に振り返らせ、今後の課題を見いださせる。 (生徒が表現力の高まりを実感できる評価の工夫) 次時の学習活動に対する見通しをもたせる。

(5) 授業設計の視点 (補充コース)

ア 基礎的・基本的な内容の定着を図り、自分で考えて表現する場の工夫

(7) 既習事項を使って答えられるような簡単な応答の場を設定する。また、教師と生徒のインタラクションだけではなく、生徒同士でも同じように英語で会話をさせ、個々の生徒の発話量を増やす。

(4) 既習事項の定着を図るために、Pattern Practice を行う。

イ コミュニケーション活動を活性化させる場の工夫

(7) 英語を使う必要性を感じさせるために、コミュニケーションの相手を明確にした Task を与え、相手が自分の意見を求めていることを理解させ、活動に取り組ませる。

(4) 自分が表現したいことが適切に表現できなかつたり、どの単語や文法を使えばよいか分からなかつたりしたときは、表現集を活用させ、それを参考に自分の意見をまとめさせる。

ウ 生徒が表現力の高まりを実感できる評価の工夫

(7) 具体的な評価規準を示した評価表を見ながら、評価をさせ、活動の目安をもたせる。

(4) 終末の自己評価の際に、本時の活動への取り組みを十分に振り返らせ、今後の課題を見いださせる。

(6) 授業の展開 (基本コース)

課程	時間	学 習 活 動	指導上の留意点と評価 (◆は評価項目)
導 入	13	1 英語で会話をする。 2 アンケート結果を見る。 3 学習目標を確認する。 自分の意見に理由を添えて相手に伝えよう。	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な表現を用いて会話させる。また、ペア同士でも会話をさせる。 <p style="text-align: center;">----- <視点ア-(ア)> -----</p> <p>少人数学級を活かし、生徒の発話量を増やすために、教師と生徒、生徒同士で英語で会話をさせる。 (基礎的・基本的な内容の定着を図り、自分で考えて表現する場の工夫)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 基本的な表現を用いて、積極的に会話を行っているか。 学校生活についてのアンケートを見せる。 何についてのアンケート結果なのか予想させ、発表させる。
展 開	34	4 外国から届いたメールを見て、メールの内容を把握する。 5 Pattern Practice で、既習事項を復習する。 6 自分の意見を考え、まとめる。 7 ペアで意見を交換し、評価する。	<ul style="list-style-type: none"> 理解しやすいようにピクチャーチャートを用いながら、確認をする。 ◆ メールの内容を理解できているか。 <p style="text-align: center;">----- <視点イ-(ア)> -----</p> <p>コミュニケーションの相手を明確にし、必然的に英語を使うようなTaskを与える。 (コミュニケーション活動を活性化させる工夫)</p> <p style="text-align: center;">----- <視点ア-(イ)> -----</p> <p>目標達成のための手立てとして、既習事項を定着させるために Pattern Practice を行う。 (基礎的・基本的な内容の定着を図り、自分で考えて表現する場の工夫)</p> <ul style="list-style-type: none"> 机間巡視し、自分の考えをまとめる上での基本的な書き方など具体的な視点をもって支援する。 <p style="text-align: center;">----- <視点イ-(イ)> -----</p> <p>どのように表現すればよいか分からないときは、表現集を活用させる。 (コミュニケーション活動を活性化させる場の工夫)</p> <ul style="list-style-type: none"> 相手の意見を聞き、評価規準表を見ながら、相互評価カードに記入させる。

		<p>8 代表者が発表する。</p> <p>9 自分の意見を書く。</p>	<p>----- <視点ウー(ア)> -----</p> <p>具体的な評価規準を示した評価表を見ながら評価させ、活動の目安をもたせる。 (生徒が表現力の高まりを実感できる評価の工夫)</p> <p>・ 仕上がりの良い生徒を指名し、発表させる。 ・ ベアの意見も参考にしながら、自分の意見を書かせる。</p> <p>◆ 相手に分かりやすく伝えるために、自分の意見や考えを、理由を添えて、書くことができる。</p>
終	3	<p>10 本時の学習を振り返り、自己評価をさせる。</p>	<p>・ 自己評価カードに記入させる。</p> <p>----- <視点ウー(イ)> -----</p> <p>本時の活動への取組を十分に振り返らせ、今後の課題を見いださせる。(生徒が表現力の高まりを実感できる評価の工夫)</p>
末		<p>11 次時の学習内容を知らせる。</p>	<p>・ 次時の学習活動に対する見通しをもたせる。</p>